

令和6年度

特定訓練指定避難所

実施報告書

- 谷田小学校
- 浦和別所小学校
- 大谷場東小学校
- 浦和南高等学校
- 大谷口小学校（大谷口中学校）

令和7年1月23日（木）

南区役所 総務課 防災・防犯係

# 令和6年度運営訓練実施報告書

避難所名： 谷田小学校避難所

実施日： 11月16日

時間： 午前9時～12時30分

## 1 【訓練概要】

### 1.1 訓練参加者

参加人数 **105**名

(参加者内訳)

No.	名称（自治会名、防災アドバイザー、担当職員、施設管理者、外国人、18歳未満の子供、障害者等の支援者、民生委員、その他）	参加人数
1	谷田川自治会	<b>17</b>
2	太田窪新生自治会	<b>9</b>
3	太田窪不動入自治会	<b>7</b>
4	太田窪二丁目自治会	<b>8</b>
5	太田窪新田自治会	<b>25</b>
6	柳橋自治会	<b>6</b>
7	太田窪四丁目自治会	<b>14</b>
8	善前第一自治会	<b>7</b>
9	避難所担当「市」職員	<b>6</b>
10	施設管理者	<b>2</b>
11	防災アドバイザー	<b>1</b>
12	見学者	<b>3</b>

1.2 訓練スケジュール（独自の様式で作成している場合は別添でも構いません。）

	訓練内容 / 担当	市職員	谷田小	総務 (谷田川)	情報 (新生)	救護 (不動入 二丁目)	食糧配 布 (新田)	物資受 入 (柳橋)	環境 (善前第一) (四丁目)
11/15	「市」災害対策本部からの救援物資 体育館へ搬入			○				○	

11/16

9:00	<b>地震発生（震度6強）</b>								
	市職員集合	○							
	各自治会にて対策本部開設								
	施設（学校）／各自治会の被災状況の把握	○	○						
9:20	各自治会 集合（被害状況の報告） 避難者（カード）受付（体育館）自治会毎に 纏めて提出			各自治会で飲料水・上履き持参、ヘルメット着用など					
9:20	<b>避難所開設</b> （避難者受入）	○							
	区対策本部への連絡（開設報告）	○							
9:30	<b>第1回 避難所運営会議（体育館）</b>	全 員							
	1. 各班の任務・配置場所の確認			◎					
	2. 訓練内容の説明			◎					
	① 体育館のゾーニング（ブルーシート貼り）	各自治会 5～6名							
	② 既設トイレの不使用方法	各自治会 1～2名							
	③ 高齢者・障害者のための【教室の避難所化】 視察・考察	各自治会 1～2名							
10:00	設営作業（①、②、③）開始	全 員							
10:00	「市」対策本部からの救援物資 配付準備						○		
10:30	避難場所開設状況・利用ガイドの掲示	○							
	連絡・伝達訓練（トランシーバー）				◎				
11:00	④ 簡易トイレの組み立て・使用方法の 説明・訓練	全 員							
11:30	<b>第2回 避難所運営会議</b> （開設状況確認）	全 員							
11:30	「市」対策本部からの救援物資 配布					◎	◎		
	訓練終了 片付け	全 員							
12:00	<b>第3回 避難所運営会議</b> （訓練終了確認、意見交換）	市職員／谷田小／運営リーダー・副リーダー（班長）／防災アドバイザー							
12:30	<b>避難所閉所宣言</b>	市職員／谷田小／運営リーダー・副リーダー（班長）／防災アドバイザー							
	区対策本部への連絡（閉鎖報告）	○							

## 2 【訓練結果】

当避難所では、「開設準備」に絞って訓練を実施した。

訓練項目は、①体育館のゾーニング（ブルーシート貼り）②既設トイレの不利用化（一部トイレの仮設使用方法）③高齢者・障害者のための【教室の避難所化】視察・考察④「市」対策本部からの救援物資の配布 の4項目。

### 2.1 訓練で良かった点（うまくいった点）とその理由

- 全体としては予定を上回る早さで訓練が実施できた。
- 「総体的には成功だった」の声があった。（が、細かい部分では種々注文・クレームがあった。…これについては次の2.2で）
- ②既設トイレの不利用化（一部トイレの仮設使用方法）には非常に関心が高く、説明に熱心に耳を傾け、訓練していた。
- これまで食糧・水の備蓄については繰り返し案内・呼びかけが行われてきているが、「トイレ」が「食糧・水」と同様かそれ以上に重要ということにきずかされた。（このトイレの仮設使用法は、家庭でも応用可能ということが熱心さに現れたのではないか）

### 2.2 訓練で悪かった点（うまくいかなかった点）とその理由

- 説明の声（マイク・スピーカー）が聞こえづらかった。
- ①体育館のゾーニングの事前準備のレイアウトの寸法が適切でなかった。……現場にあわせて調整した。
- 各訓練などのスタート／終わりの合図がハッキリしなかった。ダラダラ進んでいった印象……各訓練のスタートは一緒だが、それぞれの所用時間がまちまちなので終わりの合図が出し辛かった。

### 2.3 その他……聴覚障害のある方からの見学後のコメント

事前に“障害者”が参加することを自治会とかにお知らせいただければと思います。

私達のような障害者（他の障害者も含めて）がいることを普通に知ってもらいたいですし、今回は手話通訳者同行ですが、災害が起こった場合は手話通訳者同行は厳しいです。

なので、少しでもコミュニケーションがとれる状況を把握してほしいです。

—ご本人のコメントをそのまま記載させていただきました。—

### 3 【課題等】

#### 3.1 ゾーニング訓練、便袋を使ったトイレの設置訓練についての課題

- 2.2 で挙げられた問題、課題の改善策の検討を行う。

#### 3.2 今後に向けて（改善点等）

- 一部教室が避難所に割り当てられているが、児童の机・イス／教壇ほかを片付けてとなると避難者用スペースとして使用できるのはかなり狭くなる。
- 炊き出し用に「家庭科教室」が充てられているが、電気・ガス・水道も止まってしまうはずで、その状況の中でどの様な炊き出しできるのか？ また、調理用具はどの様なものがあるのか？ 食材・調味料はどうするのか？…事前のチェック、検証が重要。
- 障害がある方への対応が難しい。障害の種類が多様で、それらの方々を一つの避難スペースに収まっていただけなのか？
- 谷田小学校では、一般避難者の他に「障害者」「高齢者」「乳幼児がいる方」のためのスペースが用意されているが、「高齢者」の括りでは人数が多くなりすぎるので、「障害者」と併せて「要支援または要配慮が必要な方」とした方が良いのではないかと思う。
- 車イスが必須などの歩行困難な人には是非とも1階の避難スペースを用意すべきだが、実際可能か？
- 帰宅困難者への対応も話し合っていく必要があると思う。

# 令和6年度運営訓練実施報告書

避難所名：浦和別所小学校

実施日：11月16日（土）

時間：午前9時～10時45分

## 1 【訓練概要】

### 1. 1 訓練参加者

参加人数 21名（避難者カード記載者を集計）

（参加者内訳）

No.	名称(自治会名、防災アドバイザー、担当職員、施設管理者、外国人、18歳未満の子供、障害者等の支援者、民生委員、その他)	参加人数
1	別所第二自治会	2
2	別所第三自治会	1
3	白幡瓶尻	3
4	自治会記載なし(うち小学生1名)	2
5	メイツ武蔵浦和自治会	1
6	浦和別所ハイツ自治会	2
7	防災アドバイザー	1
8	避難所担当職員	6
9	施設管理者	1
10	田島小運営リーダー(広域訓練)	1
11	田島小防災アドバイザー(広域訓練)	1

## 1. 2 訓練スケジュール

9：00 震度6強の地震発生

避難訓練参加者（各自治会、副委員長、班長を含む）2～3名自宅出発。  
関係個所（校門、体育館等）の解錠・・・施設管理者

9：10 関係者体育館集合

避難者カード記入（参加者）・・・情報班長

9：20 避難所開設・状況報告・・・担当職員

9：30 避難者区割り（ゾーニング）訓練・・・全員

10：00 既存トイレ設置訓練・・・全員

10：20 防災倉庫点検・・・全員

10：30 第1回運営会議・・・全員

10：30 撤収作業開始・・・全員

10：40 物資配布・・・全員

10：45 避難所閉鎖・・・担当職員

## 2【訓練結果】

### 2. 1 訓練で良かった点（うまくいった点）とその理由

- ・当日、体調不良等で来られなかった方が複数名いらっしゃったが、参加したメンバーで協力し合って訓練が行えた。
- ・学校側の協力体制が整っており、当日の施設管理がうまくいった。トイレの設置訓練の場所の変更等、臨機応変に対応してもらえた。
- ・便袋を使ったトイレの設置訓練が好評で、袋を自治会で購入し、準備したいと声が上がった。
- ・小学生が一人参加。訓練に協力してもらった。
- ・広域訓練として、田島小学校の運営リーダーと防災アドバイザーに参加してもらい、訓練に協力してもらった。

### 2. 2 訓練で悪かった点（うまくいかなかった点）とその理由

- ・避難所担当職員間の連携（当日の役割分担）をもっと取れたと感じた。

### 3【課題等】

#### 3. 1 ゾーニング訓練、便袋を使ったトイレの設置訓練についての課題

##### ゾーニング訓練

- ・身長が高い避難者は足が出る。
- ・どこまで明確にゾーニングするか。要配慮者や高齢者をどうするか。しっかりとしたルールを作っておく必要がある。
- ・密集状態で生活するため、発熱者等考慮が必要。

##### 便袋を使ったトイレの設置訓練

- ・凝固剤を実際に使って訓練をしてみても良かった。

#### 3. 2 今後に向けて（改善点等）

- ・今回は30人弱の訓練となったが、大人数で訓練を行えたら良い。

# 令和6年度運営訓練実施報告書

避難所名：大谷場東小学校

実施日：11月16日（土）

時間：午前9時00分～正午

## 1 【訓練概要】

### 1.1 訓練参加者

参加人数 157名

(参加者内訳)

No.	名称（自治会名、防災アドバイザー、担当職員、施設管理者、外国人、18歳未満の子供、障害者等の支援者、民生委員、その他）	参加人数
1	大谷場自治会	7
2	大谷場上町自治会	13
3	大谷場下町自治会	16
4	南本町自治会	5
5	白鷺自治会	18
6	南浦和一丁目自治会	12
7	南浦和二丁目自治会	14
8	南浦和三丁目自治会	10
9	南浦和東自治会	14
10	南浦和四丁目自治会	1
11	南浦和市営団地自治会	3
12	東岸町自治会	5
13	避難所運営委員	8
14	防災アドバイザー	2
15	大谷場消防分団	8
16	生徒	5
17	その他一般	3
18	施設管理者	3
19	避難所担当職員（市職員）	10
20		

1.2 訓練スケジュール（独自の様式で作成している場合は別添でも構いません。）

時間	訓練内容	担当	人数	運営委員会の役割等
9:00	地震発生			
9:10	避難所集合	運営委員・中学校生徒		・小学校の職員用玄関から入る ・壁や天井に、地震による被害がないか確認しながら2階図書室へ
〃	物資搬出	市職員 生徒ABグループ	5人 10人	・防災倉庫から配布物資や防災用PHSを搬出
〃	避難所運営本部開設	市職員		・参集後、本部開設
〃	区本部との通信訓練	市職員		・災害用PHSを用いて区本部に開設を報告
〃	第一回運営会議	運営委員・市職員		・役割分担、開所式、訓練スケジュール確認
9:20	避難者受付準備	自治会 市職員 生徒AB	11人 2人 10人	・ピロティで避難者の受付を行う準備 ・椅子、机の配置、避難者カード、筆記用具、自治会ごとの札の設置 ・受付前に来た避難者の整理
9:30	避難者受付訓練	自治会 市職員 生徒AB	11人 2人 10人	・避難者カード記入 ・自治会ごとに避難者を受付 ・下足を入れるビニール袋の配布
	誘導	情報班(南東、大谷場自治会)	2人	・受付後、自治会単位で小学校体育館へ誘導
9:50	開所式	・司会 ・挨拶 ・司会	1人 1人	・司会 ・挨拶 ・紹介(運営委員/学校施設管理者/消防団/社協みなみ/フランスベツ/市 ・参加者へ訓練スケジュールの説明
10:00	避難者区割り訓練	総務班(南東自治会) 市職員 生徒B	2人 2人 5人	・体育館にブルーシート設営(1自治会1枚×12枚) ・生徒は区割り訓練終了後、物資・食料班の作業に合流
〃	各訓練の準備			訓練場所に担当自治会から数名補助者
〃	①トイレ便袋設置訓練	市職員 環境班(市営自治会) 生徒A	2人 1人 5人	・1階男女トイレ内にビニール袋(450)、ベンリー袋、ベンリー袋を捨てるゴミ袋、スリッパを用意。他の便器使用禁止の表示を用意 ※ベンリー袋以外は設置しておく
〃	②車いす訓練	社協みなみ 救護班(南4自治会) 市職員	1人 1人 1人	・車いすを5、6台用意(福祉用具貸与業者:フランスベツ)
〃	③担架訓練	大谷場分団 救護班(南3自治会) 市職員	1人 1人 1人	・担架を2台、ブルーシート上に用意
〃	物資受入・配布訓練	食料班(南3、大谷場) 物資班(南東、大谷場、南2) 市職員 生徒B	4人 4人 2人 5人	・お茶、食料 ・レジ袋詰め ・準備の応援。生徒Bは区割り訓練後に合流。
10:20	第二回運営会議	運営委員	6人(小学校) 6人(中学校) 2人(市職員)	・避難者数や状況の確認 ・スケジュールの進捗状況や今後の流れを確認
10:30	各種訓練開始(3種)			参加者を3班に分ける(各班20分⇒実施15分、移動5分)
〃	①トイレ便袋設置訓練	市職員(説明) 環境班(誘導:市営) 生徒A	2人(各トイレ1人) 1人 1人	1班 南本・白鷺・南2・市営 ①⇒②⇒③
〃	②車いす訓練	社協みなみ(説明) 救護班(誘導:南4) 市職員(補助)	1人 1人 2人	2班 大谷場・上町・下町・南4 ②⇒③⇒①
〃	③担架訓練	大谷場分団(説明) 救護班(誘導:南3) 市職員(補助)	1人 1人 2人	3班 南1・南3・南東・東岸 ③⇒①⇒②
11:30	物資受入・配布訓練	食料班(南3、大谷場) 物資班(南東、大谷場、南2) 市職員 生徒B	4人 4人 4人 5人	・お茶、食料、アンケート、鉛筆を自治会代表者に配布 ・食料配布の応援 ・代表者に配布する物資の運搬等も手伝う
11:40	避難所閉鎖準備	市職員 生徒A	4人 5人	・体育館ブルーシート・長椅子・机・トイレ便袋撤去・各箇所の清掃
〃	第3回運営会議	運営委員	6人(小) 6人(中) 2人(市)	・活動のまとめと反省
12:00	閉所式	司会 市職員 講評	1人 2人	・消防団長より訓練の公表をいただく
	アンケート回収	市職員、生徒	4+5人	アンケート回収ボックスを撤収する
12:10	区本部と通信訓練	市職員		・区本部へ避難所閉鎖の報告
〃	後片付け	全員		・災害用PHSを防災倉庫へ戻す等

## 2 【訓練結果】

### 2.1 訓練で良かった点（うまくいった点）とその理由

- ・訓練の準備については、運営委員会を3回ほど開催し、主要な避難所運営委員の方々との打合せが円滑に実施できたため、参加する自治会側への事前周知も含め、しっかり行うことができた。
- ・訓練当日については、避難所運営委員と訓練参加者の連携が適度にとれていたことから、ほぼ予定通りの時間内に行うことができ、大きな混乱も起きなかった。
- ・担架訓練、車いす訓練については、消防団や福祉用具貸与事業者、社会福祉協議会等の専門的な知見をもった方々が説明を行ったため、実践的な訓練となり、参加者の習熟度を高めることができた。
- ・大谷場中学校の生徒にも、事前準備や区割訓練、トイレ便袋設置訓練の運営に参加してもらうことができた。

### 2.2 訓練で悪かった点（うまくいかなかった点）とその理由

- ・避難訓練参加者が自治会ごとに纏まって来校し、9時過ぎにはほぼ全員集合していたため、想定より大分早く受付を行わざるを得ない状況になってしまった。  
自治会ごとに纏まっていたことから受付自体はスムーズに行えたが、被災時は最も混乱する局面であるため、運営側としては多少の混乱や苦労があった方が訓練としての効果を感じることができたのではないかと思った。
- ・倉庫保管用の飲料と訓練配付用の飲料の区別が一瞬分からなくなり、確認に手間取ってしまった。  
防災倉庫保管時からそれぞれが分かるよう、区別しておく必要があった。

### 3 【課題等】

#### 3.1 ゾーニング訓練、便袋を使ったトイレの設置訓練についての課題

##### ①ゾーニング訓練について

・自治体ごとに纏まり、ブルーシートを引き、テープで区割するといった流れは滞りなく行えたが、被災時の避難者数は自治体ごとに大きく異なるため、使用するブルーシートを敷く数は自治体ごとに異なることや、衣類や3日分の食料等を持参し、それらを置くスペースが必要なこと、プライバシーを保護するための段ボールの仕切りの用意がない等、訓練と被災時の違いについても説明が必要であると感じた。

##### ②便袋を使った訓練について

・実際に現物（便器や便袋）を使用した実演ができたが、トイレ内や個室が狭いため、説明は聞こえるけど便器等が見えない、という参加者がいた。1班全員が入りきらなかったため、入れ替え制としたことから、予想外に時間がかかり、説明が駆け足になってしまった。

時間が許すなら一人ずつ個室を覗いてみたり、便袋を広げてみたり等、説明を聞くだけでなく体験する時間をとりたかった。

・小便器が手をかざすと自動で水が流れる仕様のため、訓練中ずっと水が流れてしまっていた。次回は事前にセンサーを紙で覆うなど、工夫が必要と感じた。

・参加者から「便袋の在庫はいくつか」「便袋がなくなった場合の対応はどのようなものか」等質問があり、関心が高いことが伺えた。

#### 3.2 今後に向けて（改善点等）

・多くの参加者が集まったが、年齢層は60代以上が大半だったため、子育て世代や学生にも参加してもらいたいと感じた。訓練校の児童生徒の参加を促すことで、保護者にも訓練の重要性が伝わり、今後の年齢層拡大に繋げられるのではないかと思った。

・訓練で使用する物品や食料等の配布物資が大量にあるため、訓練当日にすべてを運び込むことは難しい。今回は学校側の協力を得て、前日にある程度運び込むことができたため、当日の準備行為が軽減し、ほぼ予定通りのスケジュールで実施することができた。

しかし、物品等全てを事前に準備してしまうと訓練の効果に繋がらない部分もあると思うので、どの程度の事前準備が適切なものか、事前準備をしておく部分と敢えてしない部分を作るなど、訓練のやり方も色々な形があるのではないかと思った。

# 令和6年度運営訓練実施報告書

避難所名： さいたま市立 浦和南高校  
実施日： 11月16日(土)  
時間： 8時30分～12時00分

## 1 【訓練概要】

### 1.1 訓練参加者

参加人数 201名

(参加者内訳)

No.	名称（自治会名、防災アドバイザー、担当職員、施設管理者、外国人、18歳未満の子供、障害者等の支援者、民生委員、その他）	参加人数
1	南高・南中・辻小の各避難所参加者	175名
2	施設管理者(南高)	2名
3	担当職員(南高)	18名
4	障害者・支援者	4名
5	その他(深谷市職員)	2名
6	合計	201名
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13	カード未記入者：担当職員・施設管理者・受付・西川	24名
14	アンケート未記入者（記入は129名）	68名
15		
16		
17	18歳未満の子供	33名
18	民生員	6名
19	防災アドバイザー	7名
20	ボランティア協力 南中学生徒 6名 南高生徒19名	25名

1.2 訓練スケジュール（独自の様式で作成している場合は別添でも構いません。）

時間	訓練内容	備考
	<p style="text-align: center;"><b>別紙参照</b></p> <p>避難所運営訓練3校合同会議</p> <p>第1回： 6月21日 水深団地集会場地 参加者： 7名 各避難所リーダー・自主種防災会会長 訓練の内容や方法の協議</p> <p>第2回： 7月28日 水深団地集会場 参加者： 18名 第1回の内容を踏まえ具体的に訓練方法を検討 予算案を作り各自主防災会での負担を承認 南高生ボランティア協力申請有り。</p> <p>第3回： 8月25日 水深団地集会場 参加者： 24名 ポスター・回覧の作成案の提示・参加人数の予測 訓練内容の詰めの会議</p> <p>第4回： 9月20日 南高会議室 参加者： 46名 タイムスケジュール案作成・回覧案・ポスター案 承認され印刷・配布に進む。</p> <p>第5回： 10月25日 南高会議室 最終 参加者： 51名 訓練内容等の最終確認をし準備に入る。</p>	

## 2 【訓練結果】

### 2.1 訓練で良かった点（うまくいった点）とその理由

- ☆今までは開所式等のセレモニーから始まり、全員で一つの訓練を見学するパターンでやってきたが、今回は運営訓練方法を変えて実施。集合時間は決めず、出来るだけ実際の災害に近い訓練実施したが、完璧には程遠い訓練だったが、初回としては悪くなかった。
- ☆ブルーシート張は運営委員だけでなく一般参加者も協力して出来たことは良かった。
- ☆炊き出し訓練の代わりにポリ袋調理を実施。在宅避難には必須の方法になる。
  1. 調理方法がシンプルで簡単
  2. 同時に複数調理で時短・水の節約
  3. 洗い物が減る
  4. 栄養を逃さないし個別調理可能（アレルギー対策）
  5. 油分や塩分を控えられる
  6. 温かい食事が出来る等のメリットがある。調理後、実際に試食をしてもらたが講評だった。
- ☆応急処置訓練では「コップ半分のお湯で熱いタオルを作る」が好評。
- ☆段ボールベット作りでは、一般参加者も一緒に加わり協力し作り上げた。
- ☆子供班の訓練としては参加した子供達に紙芝居・カードゲームなどを通して防災を学んでもらった。
- ☆災害時用特設公衆電話がどこにあるか確認出来たが、使い方の確認までは出来ていない。（初期設定が必要？ 国際通話は出来る？）

### 2.2 訓練で悪かった点（うまくいかなかった点）とその理由

- ★各訓練を同時進行にしたため、すべての訓練が見られなかった人がいた。次回は訓練時間をもっと長くするか、訓練の数を減らさないといけない。
- ★実際の災害時を想定し、発災から家族や近所の安否確認し避難所へ来てほしかったが何時もの訓練と同じように、発災8時半には避難所に来てしまっていた人が多かった。次回は発災から避難所へ来るプロセスをもっとわかりやすく説明したい。
- ★障害者（聴覚）の参加があった。区で対応してくれた為、運営委員の訓練にはならなかったため、次回機会があれば是非我々で対応していきたいと思った。筆談でコミュニケーションを取っていたが、今は「こえとら」のようなアプリがあり、何処まで対応出来るか試してみたかった。又、防災倉庫には聴覚障害者用コミュニケーション支援ボードが入っているので、試してみてほしかった。
- ★訓練は7つに分けて行ったが段ボールベットに集中して、他の訓練は手持ち無沙汰であったので、今後の訓練では人の分散を考えてゆきたい。
- ★街角消火栓訓練：体育館近くの外の水道を使っただけの訓練は、屋上の貯水槽に貯める式の水道だったので水圧が弱く水の勢いがいまいちだった。事前に確認が必要。
- ★ペット同行避難の方が1組訓練参加されたが、南高の受け入れ態勢（同部屋での生活は出来ない）を説明したが納得されず帰られた。（理由：避難者は家族の一員なので納得いかず。）ゲージ・エサ・水・リード等の準備と飼い主への普及啓発が必要

### 3 【課題等】

#### 3.1 ゾーニング訓練、便袋を使ったトイレの設置訓練についての課題

##### ゾーニング訓練

予想はしていたが受付が混乱し行列が出来ていた。受付方法の再考が必要。  
避難者カードには氏名・住所・自治会名等の3点の記入をお願いしたが、ゾーニングの健康カード記入が行列の原因ではないか。受付人数を増やしテーブルの増設が必要。

発災時の受付方法：受け付けを3段階に分ける。

第1段階：検温・健康カード記入 第2段階：発熱者（疑いのある人）

第3段階：健常者 に分けて受付。（実際の災害時には、健常者は体育館へ案内  
発熱者は校舎1階の1年生の教室（8クラス）へ足りない場合は2階へ。）

受付時、マスクや手袋の装着したほうが良かったのではと反省。

##### 便袋使用した訓練

トイレの数量がスフィア基準の20人に1基に変わってきた場合、トイレ不足がもっと深刻になり、マンホールトイレの使用が必須になるのではと思う。自治体でトイレカーやトイレトレーラーの保有をお願いしたい。災害時に全国のトイレカーが集結すればもっと改善される。平時にはイベントや訓練で活用できればよいのでは。

訓練参加者の便袋（携帯・簡易トイレ）備蓄状態はまだまだ足りていない状態で、今後の在宅避難の課題として、在宅避難時にはどれだけ必要かを周知したい。

#### 3.2 今後に向けて（改善点等）

- ❁ 来年の運営訓練も合同で開催する方向で協議中  
R6年度で構想で終わってしまった訓練、避難所まで行く途中の課題（火災発生・家屋倒壊・怪我人の救済等）・ジンリキを使った訓練を是非計画し実施したい。
- ❁ アンケート未記入者が多く、回収方法等の改善が必要。
- ❁ 各班の事前打ち合わせをもっと密に話し合っていきたい。
- ❁ 訓練参加者を増やす。
- ❁ 実際の災害時に近い、リアルな訓練を計画。
- ❁ 避難所に行かずに生活ができるように、耐震化や在宅避難の方法（家具転倒防止や在宅避難の為に備蓄を考えてもらうようにしたい。
- ❁ ペット同行避難受入方法を考える。（ペットと一緒に生活できるように）
- ❁ 各避難所運営委員会に多少の温度差があるので埋めていきたい。
- ❁ 荒川・笹目川の洪水・内水氾濫対策の為に訓練も必要。
  
- ❁ 来年の運営訓練は一斉開催ではなく、是非日時を変えてできるようにお願いしたい。  
他の避難所の訓練を見て参考にしたい。



2025（令和7）年1月9日

大谷口小・中学校避難所運営委員会

大谷口小学校運営委員会委員長 山下金郎

大谷口中学校運営委員会委員長 星野幸男

大谷口小学校運営リーダー 藤本吉則

大谷口中学校運営リーダー 林真希子

## 11月30日 南区避難所一斉開設・運営訓練の一環としての第63回活動のまとめ

### 1：開催までの経緯

当運営委員会は、2009年に活動を開始して以来、年に数回の避難所開設・運営訓練を実施してきた。感染症が流行していて南区として活動を自粛していた時期も控えめながら活動を続けた。一斉訓練時に関しては、2021年度は11月20日に第53回活動、2022年度は11月19日に第57回活動と、それまでより少人数ではあったが、それぞれ130余名、180余名の参加で実施した。なお、昨年2023年度は12月9日に約240名で実施した。

今年度は11月16日に南区一斉避難所開設訓練が予定されていたが、10月27日に大谷口自治会連合会主催の防災訓練が予定されていたことや、11月16日・17日に大規模な行事を予定していた自治会があったことなどから実施日を変更することとした。8月27日に学校施設の利用についての協議があり、その際に学校側の都合を聞いたりして11月30日に開催することとした。

### 2：準備と活動のねらい

10月6日に拡大役員会を開き、自治会長・自主防災会長、8班の班長・副班長など60名ほどで大筋をどうするかを話し合った。

・実際の災害時を想定したやり方をする。・集合時間やスケジュールにとらわれないやり方をする。参加者(避難者)に手伝ってもらおう。・水害についてのコーナーを設ける。・水道備蓄の取り扱い講習を水道局にやってもらおう。・この数年活動時間がやや短かったので、昼食後も活動するようにする。・講習会を開く。・自分の班だけでなく他の班の活動に参加することも考える。などについて確認した。

11月10日には第62回活動を開催し、倉庫内物品の確認をしながら、第63回の活動について相談し合った。中学校倉庫を更に整理して、8班のコーナー以外に、市担当職員の専用コーナーを設けた。備蓄倉庫での活動後、細野自治会館を借りてまとめの会を開催した。

第63回の活動に関して12自治会共通の回覧を2回作成して地域全体に周知した。共通回覧では、単に日時や場所を知らせて案内するだけでなく、災害時にどういうことが大切かを書き込んで啓蒙の役割も含むように作成した。その後いくつかの自治会では独自に回覧やポスターを作るなどをした。(共通回覧16号、通算22回目を添付します。)

前々日の11月28日に南区からの提供物品が納入されることになったので、受け取りに集

まった人たちで、品物を運んだ後に打ち合わせをした。

### 3：当日の活動

当委員会では長年に渡って訓練や検討を重ねて、＜実際の災害時における活動の流れ、①～③＞が共有されている。その流れに沿って、今回の活動でやったこと、やらなかったこと、今後取り組みたいことを整理する。

#### (1) 開設まで

##### ① 安全確認～仮本部設置～受け入れ準備

\*集合時間を決めていない活動だが、南区との関係で担当職員は早めに来ていた。そして、初動についてはほとんど担当職員がやってくれた。災害時も担当職員が一番早く駆けつけることが予想される。総務班中心に初動の訓練を積んでいるので、担当職員の方が来られないとか、他の用事で忙しいとかしたときには運営委員がすることになる。

事務局員、総務班の人たちで早めに来た人たちもいて、9：00頃に仮本部立ち上げ、開所宣言ができた。事務局員1名は今回も案内シート版（A4サイズ、パウチ加工済を100枚以上作ってある）を出して、3ヶ所の入り口から健陽館までの各所に貼りだした。

\*開所宣言を受けて、早めに来た各班の運営委員が必要物品を出し始めた。

**＜今後の課題＞ 案内板が白黒で目立たない。色を使うとか、2枚並べるとか、工夫が必要である。事務局員：大寺と避難誘導班で検討して一部作り直す。**

##### ② 集まって来る参加者（災害時は避難者）への対応

\*ハンズフリー拡声器（委員会所有2台）を適宜使ったので、情報は伝えやすかった。今行なわれていることを説明し、安全確認を終えて仮本部を立ち上げ、検温～受付をすることを説明し待機してもらった。健陽館前に総務班作成の案内パネルを貼り出した。

##### ③ 夜間の場合には照明を用意。サーチライト・懐中電灯・発電機・電球

\*今回は急ぐことではなかったが、訓練の一環として施設管理班が発電機起動訓練をやった。当委員会は独自にカセット式発電機を2台所有している。今回は当委員会所有の連結LED電球を接続し、コードを支える三脚も組み立てて点灯した。夜間には健陽館前が相当明るくなる。投光器も発電機に接続した。（投光器1台故障）

\*カセット式発電機は、エコスロットルで必要な電力量だけを取り出せば、カセットボンベ2本で1.5時間～2.2時間は使える。

\*施設管理班はこの十数年、年に数回の発電機等の維持管理にあたってきたので、手際よく準備できた。

◎施設管理班は、班として講習会を開かずに、発電機・電灯等の稼働をやって、見学をさせたり説明したりした後は、他の班の活動を見学したり、講習会に参加したりした。

**＜今後の課題＞ 災害時に車の進入をどうするかを検討が必要である。ロープによる制限方法などを施設管理班・総務班で研究する。**

#### ④ 雨天の場合にはとりあえず雨を防げる場所に誘導。

\*今回は好天に恵まれたが、天候次第では、仮受付等を省いて、ともかく健陽館内に誘導する必要がある。裏口から来る人のことも考えて中学校体育館に誘導することも検討した方がよい。

\*30日にサッカー部がグラウンドを使って試合をするという情報が入った。結果的には半分以下のスペースで練習するだけだった。万一グラウンドが使用されていたとしたら、「グラウンドがぐちゃぐちゃになって使用できないときのための訓練にしよう」と話し合っていた。

#### (2) 受け入れ開始

#### ⑤ 検温や仮受付

\*検温は感染症対策の意味だけでなく、体調不良の人を発見する手立てとしても実施してきたが、「必ずしも全員にやる必要はない、不安な人に申し出てもらって検温すればいいのではないか」という意見があった。今回は救護班が担当した。

**<今後の課題> 検温を全員にするのかどうかを含めて、初動受付のあり方を救護班と情報班で検討する。**

\*今回は限定された時間内であったが、災害時には断続的に避難者が来ると考えられる。適当な段階で、検温と受付を同じ場所にして1~2名で継続して担当する。(今回も途中から検温場所を受付の隣に移動した。)

\*今回は仮受付で受付カードに名前・年齢・自治会名だけを書いてもらって預かったが、災害時は簡単なことだけを記入してもらい、チェックした後、受付カードを持って入ってもらって、後で(落ち着いてから)書いて受付に届けてもらうか回収して回るかすることになる。

\*今回、学校の協力を得て中学生3人が参加してくれ、受付に加わった。

\*避難者カードの整理が初期段階ではできず、また五月雨的に参加者が来たりして、人数把握が1時間後ぐらいたってからになった。

\*総務班、食糧班への伝達がアナログ対応で、即時対応にならなかった。

**<今後の課題> 無線機が活用できるように、災害時はもちろんのこと、訓練時にも常に持参することを周知徹底させる。**

#### ⑥ 居場所への案内 平行して居場所整備

\*ブルーシートや段ボールを運んでもらったり、ブルーシートを敷いたりという作業を参加者に手伝ってもらってやった。片づける際も参加者の一部が熱心にやってくれた。

\*ダンボールベッド作りは大勢が参加し、年配者の方々からは「必需品だ」という感想が多々あった。

◎避難誘導班は参加者の中で名簿に名前を記載できる人を何人か見つけた。班の相談会参加者を含めて、委員(委員候補)を19名まで増やしている。

#### ⑦ トイレ確認 必要なら仮設トイレ設置

- \*災害時には、トイレ確認とトイレの案内板設置を急ぐ必要がある。
- \*洋式トイレの数が不足しているので、学校内トイレが使えるときでも仮設トイレは必要。
- \*中学校のマンホールトイレ（使用不可である）の器材を引き揚げて、仮設トイレを増やすようにまた市に要望する。

**<今後の課題> 防災課から「中学校のマンホールトイレが直った」という言葉がでているという指摘があり、事務局から確認と改めての抗議・申し入れを行う。**

（電話で行ないました。）

- \*仮設トイレは、環境班は黒子になって参加者（未体験の人たち）に組み立ててもらった。3基を組み立てた。1基の組み立てに初めての人でも3人～5人で、30分程度で組み立てられる。
- \*環境班は新しく使った仮設トイレのパイプにテープを巻いて番号を記入して組み立てやすいようにした。これで3基に番号がついた。番号が付けられたものは15分で組み立てられた。
- \*学校内のトイレ確認、ごみ箱の設置、ごみの処理などが環境班としてはできなかった。

**<今後の課題> トイレ確認が誰でもできるように、ごみ箱の設置も誰もができるように、（他のことがらと同様に）マニュアルを作る必要がある。現在環境班の班員に女性がいない。各自治会に女性環境班員の推薦をお願いする。**

- \*総務班員が椅子型の簡易トイレを見本に持ち込んだ。好評であった。

**<今後の課題> 補助事業の対象になるかを確かめた上で、今後購入を検討する。行政にも備蓄品として置くことを薦める。**

（補助事業の対象になるそうです。）

### (3) 状況把握

#### ⑧ 参加者（災害時は避難者）への聞き取り

- \*今回は組織的には行わなかったが、災害時には重要である。聞きに回らないと話せない人も多い。話しかけるといろいろと話してくれる。
- \*車いすで来た人、車いすに乗っての移動を体験する人、ペットを連れてきた人へは事務局員他が対応した。

#### ⑨ けが人・要介護者などへの対応

- \*今回は、救護班がパーティションを組み立て、救護班活動の場を設営した。被災者一人と救護班員二人が入って手当てなどができるスペースを作った。
- \*その隣で、講習会を開いた。  
三角巾の使用法と心臓蘇生の流れと注意事項について、救護班員が指導と解説を行った。参加者が興味を持ちやすいように、また分かりやすいように解説したので、参加者が少しずつ増え、多くが参加し学んだ。
- \*災害時にも、パーティションを組み立て、救護コーナーを設けることが大切である。

**<今後の課題> 簡単な応急手当ができる人を増やすために、以前やっていたような救護救命講習会を適時開催する。**

検温を全員にするのかどうかを含めて、初動受付のあり方を救護班と情報班で検討する。

⑩ 運営会議を開き、とりあえず必要なことを確認する。

\*今回は運営会議を開催しなかった。

\*災害時には、本部を決して留守にしないこと。全体的なことは（急を要することで勝手に動くこともあるだろうが）事前にでも事後にでも運営会議で確認することが大切である。

(4) 状況把握と情報収集

⑪ ラジオの用意。

\*今回は用意しなかったが、早めに避難所に着いた人はすぐラジオの準備を始める。

<今後の課題> ラジオだけでなく、8班が別個に保管する必要があるのかどうか。電池を一括保管したように、例えば文具なども一括保管がいいのではないか。物資班を中心に検討する。

⑫ 状況を伝える。

\*今回は集合時への語りかけはできたが、昼食時には語りかけができなかった。

\*食品の配布に問題があり、途中から配布場所を変更したが、そのことについての案内もしなかった。災害時には適時、状況伝達が必要となる。

\*回覧板に書いたようなことを読んでいない人、市報その他を読んでいない人、災害時のことや避難のことなどを全く考えたことのない人がけっこういる。

⑬ 案内看板を設置する。

\*今回もいくつか掲示したが、会場のどこに何があるか、どの倉庫に何があるかを把握できていない人が多かった。

<今後の課題> 学校との協議で用いた使用箇所のA4の図をA0に拡大し、訓練時や災害時に色付きマジックで書き込むようにする。中学校に拡大できる機器があるはず。情報班、避難誘導班で準備する。

(5) 運営活動

⑭ 仮受付を続け、同時に本受付も始めて避難者の特性を整理する。

\*今回は仮受付をして、氏名と年齢、所属自治会を確認しただけだったが、災害時にはその他の情報も書き込んでもらって問い合わせなどに対応できるようにしたい。

\*整理するためのPCの購入も検討したい。（再生パソコンに良いものが多い。15,000円～20,000円ぐらい。）

⑮ 情報張り出し箇所を定め、書き込める準備をする。

\*当避難所で提案し、南区が各避難所に置くことになった壁に貼ったりはがしたりできるホワイトボードシートが倉庫にある。今回は使わなかったが使って情報を書きだす練習

をしたい。

⑩ けが人や不安に思う人へのケアを継続する。

\*今回は対象者がいなかったが、委員全員が心がけておきたい。

⑪ 参加者（災害時は避難者）から協力者を募る。

\*参加者に協力してもらって運営することが当たり前になって来ている。少数ではあるが、参加者の中で委員になってくれる人がいる。

⑫ 必要があれば仮設トイレを組み立てる。

\*⑦で説明したように今回は3基組み立てた。

＜今後の課題＞ 中学校のマンホールトイレは使用不可。テントは使える。座椅子型簡易トイレを買ってテントだけ使う方法はある。

和式トイレは高齢者には辛い。和式トイレを使えない若者・子どもも増えている。座椅子型簡易トイレを買おう。

⑬ 食事についての検討を始め、必要であればアルファ米を用意する。

\*今回は昼食付きの訓練だったので、開設してすぐに準備に当たった。災害時には状況を見て食事を作るかどうかを運営会議で決めることになる。

\*参加人数を200名～240名程度と考えた。当委員会では事前に参加者を確定することはしない。事前に自治会から参加予定者の人数を聞くこともしていない。日常的に活動しているので、予定人数と大きくずれることはないが、災害時には全く見当がつかない。本部の采配が重要になる。

\*災害時には状況に応じてアルファ米を用意することもあり、食糧班に限らず誰もが作れるようになっておく必要がある。200食前後を作る場合として、今回の食糧班の活動を以下に報告する。

＜食糧班の活動＞

使用備品・備蓄品

中学校倉庫より：薪釜3基・薪釜設置用スチール板・食糧班ボックス

小学校倉庫より：バケツ10個・かご・ペーパー・ゴミ袋など

健陽館廊下より：市からの新規配給消耗品・食糧（クロワッサン・ライトミールブランサンドカカオ味・お茶・アルファ米（50食）×6箱） 当委員会が用意したものは2ℓ天然水24本

◇活動内容

9:30-10:00 開錠、安全の確認を受け、受付を済ませる。

中学校倉庫から薪釜、鉄板、薪を中学校校庭へ、小学校倉庫から、なべ、ざる等の調理用品を小学校家庭科室へ運ぶ。

10:00 薪釜3基に保存水期限切れのものを使用して中を洗い、新しい天然水をアルファ米用に沸かす。防火用の水もバケツで用意。消火器3台も用意。

10:35 アルファ米にお湯を注入する。出来上がり次第にパック詰め。

10:55～ アルファ米をパック詰めする（230パック出来上がり）

10:00-12:00 アルファ米担当とは別に家庭科室において、カボチャの煮物、大根人参の浅漬を調理する。事前に検体の提出を済ませた向第二地区の方々を中心に7名で担当。

カボチャ 4ツ切りを30ヶ 調味料 醤油2本 料理酒1本 大根 15本  
砂糖2kg みりん1本 人参 9本 塩 1kg （合計 10,761円）

11:30 までにカボチャと浅漬けをバックに詰める。健陽館に運ぶ。

12:00 区役所からの配給品、アルファ米、煮物を食糧班、担当職員の方々と参加者に配る。

12:00～ 撤収 薪釜は、残りの炭などに水を掛けて消火を確認した後に、廃棄用の袋に入れて処理した。バケツ、着火用材などを纏め小学校倉庫に収納。薪釜、下に敷いたスチール板等は中学校倉庫に収納。

13:00 水道の配水に関する説明会に参加。

まとめ（反省）

○ 今回は、電電細野より若い男性の方4名が参加して下さり、薪釜の設置、湯沸かし、その後の片付け、調理品の移動に積極的に参加して下さり大助かりでした。

○ アルファ米のバック詰め、配給品への袋詰めに担当職員の方も参加して頂き助かりました。

○ 好天で参加者が多いと思っておりましたが、逆に200人弱と少なく配給品が多数残ってしまいました。最後まで残られた参加者にお持ち頂きました。何度か訓練に参加されたことのある方は、配布を待たずに12時前に帰られる方も有り、配給品が残ってしまったと思われず。

○ 受付係の人数の確認を早めにして、配給品だけでも持ち帰って頂ければ良かったと思います。

今回は、担当職員の方々にいろいろとご協力頂き大変助かりました。

㊸ 夜間であれば当初から照明を準備するが、昼間であれば夜間に備えるとともに、充電用に発電機を動かす。

\*③で報告済。災害時に電気が止まったら、サーチライト・携帯電話の充電用に早めに起動する。

<今後の課題> USBの差し込みもついた電源コードを事務局が買っておく。

㊹ 居場所を改善する。ベッド・パーティションなど。

\*当委員会は2009年に活動を始めた当初にダンボールの有効性に気づき、備蓄を心がけてきた。中学校のグラウンドに降りるスロープ下・細野自治会の備蓄倉庫に保管してある。

㊺ 水道が止まった場合には給水栓を開けて水を出す。

\*中学校入口の駐車場に倉庫がある。鍵は中学校が保管。今後地元住民（当委員会）で3本程度持てるように行政に申し入れる。

\*水道局から何回か講習を受け、何人もの人が水を出せるようになったので、水道局に「災害時には大谷口は最後でいいから」と言ったこともあったが、その後、講習を受けた人たちが高齢化しているので、今回講習会を開いた。

㊻ その他、休憩・宿泊用に毛布をだすなど、必要と思われる活動をする。

\*今回は必要がなかった。

#### 4：参加人数

(1) 名簿記載人数は195名 他に担当職員 11名

・地区内 183名 (防災アドバイザー6名を含む)

・地区外 3名 (南区役所)

・施設管理者 1名 ・不明 8名

(2) 地区内・自治会別内訳・

細野 49 広ヶ谷戸 29 向原 2 向第二 52 大谷口西 10  
細野団地 8 みどり 11 友和会 5 電々 11 睦 6  
ひばり 0 県営 0

\*名簿に記載しなかった人もいた。食糧班がアルファ米を 230 パック用意して、余りが出たが配布前に帰った人もだいたいた。また、もらわなかった人もいた。

\*実際の参加者は 230 名前後であったと思われる。

5 : 自治会の対応と無線機の活用

(1) 自治会によっては 1 次避難所を決めている。

\*細野自治会は自治会館と自治会館前の広場、向第二自治会は篠堤公園、細野友和会は細野公園を 1 次避難所としている。

\*細野自治会は、自治会館を避難所としていて、そこを核にして大谷口小・中避難所と連携して避難所運営を行なうことになる。向第二自治会は篠堤公園に集合して、そこで被害状況などを確認してから大谷口小・中避難所に向かうことにしている。細野友和会は細野公園にテントを立て、居場所を作り、そこでも炊き出し・簡易トイレ設置などを行ないながら大谷口小・中避難所と連携することにしている。ただし、篠堤公園・細野公園などは低湿地だったところなので使用不可になる可能性もある。

(2) 今回は、細野自治会は運営委員として直接大谷口小・中避難所に向かった人、参加者として直接大谷口小・中避難所に向かった人もいたが、参加者の半数超は自治会館に向かい、そこで仮受付を済ませてからまとまって学校に向かった。向第二自治会は自の訓練を兼ねて参加し、活動をしながら篠堤公園に向かい、そこで仮受付を済ませてから学校に向かった。細野友和会は翌日に防災訓練、餅つき&昼食会を予定していたので、運営委員他数人が直接学校に向かっただけであった。

(3) 一次避難所に集合した自治会は適時本部と無線で連絡を取り合った。また、直接学校に向かう自治会の中には、途中の状況を本部に報告した自治会もある。

\*関係自治会は（委員会所有の 2 台を含め）計 40 台以上の無線機を保有している。毎月 1 回、第 1 日曜日 7 : 45 ~ 8 : 00 に通信訓練をしている。

<今後の課題> 事務局飯沼作成の無線機使用マニュアルが活用されていない。再度各自治会にプリントを配り、活用するように要請する。

6 : 全体的な問題点など

(1) 今までの活動の中から、<実際の災害時には誰が参集できるかわからない。また、何が優先されるかもわからない。今まで担当して訓練を積み重ねてきたこと以外のことをやらなければならないこともあるだろうし、自分たちが手際よくやってきたことを他の人たちがやることになるかも知れない。>ということが認識されている。今回も時間の制約があり、訓練を担当する部署では他の活動に参加する余裕はなかったが、施設管理班は発電機等のチェックの後で総務班や救護班の活動を見学したし、情報班も手が空いてきてから他の班の活動を見て回ったりしていた。その他の班の人たちも他の班の活動を気にかけてたりして

いた。

- (2) 誰が運営委員なのか、またどの班に属しているのかわかるように、班名の入ったベストを複数の自主防災会で購入してくれたし、南区から提供してもらったビブスもあって活用できた。

**<今後の課題> 避難してきて班活動を手伝う人にも着てもらおうようにするのはどうか。ベストやビブスを身につけることで意識が違ってくるかも知れない。**

- (3) 新しい班員を呼び込むような活動が避難誘導班を除いてできなかった。

\* 今後、班員を増やしていく方法の一つとして、各班で勧誘のチラシを作成しておいて、それぞれの活動場所で配ったらどうかという提案があったがまだ実現していない。

**<今後の課題> どこかの班でまずは作ってもらいたい。**

- (4) 子どもを連れて参加する若い人たちを以前よりは多く見かけるようになった。運営訓練がややマンネリ化している面もあるので、若い人たちに企画を出してくれるように頼むとか、子どもも楽しめる防災ゲームなどを取り入れるとか、新しいやり方も模索していきたい。

**<今後の課題> 訓練時には「実際の災害時を想定しての訓練」を実施している。「ゲーム感覚を取り入れた訓練」との兼ね合いをどうするかの検討が必要である。**

以上

問合せ先：とりあえず下記をお願いします。必要に応じて担当者に繋がります。

藤本吉則 南区大谷口 989-10 電話 09035975479

Mail [fwakabajuku794@gmail.com](mailto:fwakabajuku794@gmail.com)

Line 47191233

# 12/8 広ヶ谷戸餅つき大会・ボランティア報告

発行日：令和6年12月19日

大谷口中・学校地域連携コーディネーター 清水恵二

## 広ヶ谷戸餅つき大会に15名がボランティアとして参加



12月8日（日）、広ヶ谷戸自治会主催の餅つき大会があり、生徒有志15名がボランティアとして参加しました。生徒たちは、入り口や受付に向かう来場者の誘導案内を担当し、途中からは餅にきな粉などをまぶしたり、パックに詰めたりする作業を行いました。また、作業の合間、餅つき体験をさせていただきました。本行事の来場者総数は、450名ということでした。

## 餅つき大会でボランティア活動をした生徒の感想（一部）

<1年・女子>

初めてボランティアに参加しましたが、やりがいをととも感じました。いろいろな仕事に積極的に取り組もうと意識しました。また参加してみたいと思いました。

<2年・女子>

ボランティアをして、普段できないような活動ができてよかったです。楽しかったです。

<2年・男子>

普段ではできない貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

<2年・女子>

今回の餅つき大会でボランティアをして、今までとは少しちがった活動をし、地域の方々とたくさん交流をできてよかったです。

<2年・男子>

地域の人たちと交流して、普段では体験できないような餅つきなどの活動ができて楽しかったです！ また機会があったら参加したいです。

<1年・女子>

おもち作りが楽しかったし、地域の方の役に立った。次回も、お客さんや他のボランティアの人に喜んでもらえるようにがんばりたい。

<1年・女子>

地域でのボランティアは初めてだったけど、楽しかったし、いろいろな人たちの役に立てて良かったです。



## 餅つき大会、地域の方々の感想より（中学生ボランティア関係）

主催者の実施報告書に、来場者の感想が載っていました。中学生関連の記述の一部を紹介します。「中学生の子供達がお手伝いしているのがよかった」、「良い天気の中、地域の方と中学生、子どもたちが楽しく交流を深められる貴重な場でした」。・・・嬉しい一言です。励みになります。ありがとうございます。

生徒や来場者の感想からも、本行事に生徒がボランティアとして参加することができて本当によかったと感じています。今回参加した生徒たちは、来場者への挨拶も作業も積極的にしていました。活動後、今後のボランティアについて尋ねると、多くの生徒が「ぜひやりたい」と回答していました。来年の2/1(土)には、善前地区でもちつき大会があります。今回参加した生徒には、個別に声を掛けました。

これからも、中学生ボランティアの活動の場を広げていきたいと考えています。地域の中で活躍の場がありましたら、お知らせください。学校地域連携コーディネーター(清水)直通電話 080-2010-8005

# 11/30 避難所開設運営訓練・ボランティア報告

発行日：令和6年12月24日

大谷口中・学校地域連携コーディネーター 清水恵二

## 合同避難所開設訓練・運営訓練にボランティアとして参加

11月30日（土）、大谷口小・中合同避難所開設訓練・運営訓練に、生徒3名がボランティアとして参加しました。生徒たちは、本校の健陽館に避難してくる地域の方の受付係を担当しました。来場者は約200名でしたが、担当スタッフの方の御指導の下、生徒たちは来場者に対して丁寧に対応することができていました。ボランティアとして参加した生徒の保護者も訓練に参加しており、支援をしていただきました。ありがとうございました。

本地域では、今回のような訓練を15年前から続けているそうです。地域住民の方々が各班に分かれ、割り当てられた担当の活動を順調にこなしていました。まさに訓練の賜物で、災害に備えた日頃の訓練が重要であると強く感じました。

中学生ボランティアは、受付のほか、食糧班から出た紙箱や段ボールの片付け、食糧の配付などを担当しました。活動を通して、地域の方々と交流できたこともよい経験になったようです。



## 避難所訓練でボランティア活動をした生徒の感想

<3年・男子>

ふだんしゃべらない地域の人たちとかかわれてよかったです。水の出し方が大変なことがわかりました。

<1年・女子>

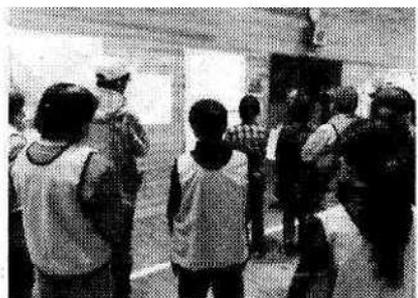
受付をして、地域の方と交流ができた気がしたし、災害がおきたとき、どのように行動するのかよくわかりました！

<1年・男子>

ボランティアをしているいろいろなことが知れてよかったです。また、地域の人たちと話せてよかったです。



水道局職員の説明を熱心に聴く参加者たち



市内各地で行われている訓練ですが、地域によっては小中学生の参加が増えているようです。地域での実体験を通して、地域で活躍する人材を育てていくことが、地域の力になると感じました。今回は期末テスト直前で参加者は少数でしたが、少しでも参加する生徒が増えるよう呼び掛けていきたいと思ひます。